

ILCの取り組み

ILC グローバル・アライアンスでは様々な取り組みを行っているが、ここでは認知症と、統合ケアへの取り組みを紹介する。

認知症への取り組みでは、故ロバート・バトラー博士の提唱で2009年にニューヨーク賢人会議が開催された。この会議には各国の第一人者が一堂に会して、現状の確認とこれからの取り組みを議論した。

その後2010年にケープタウンで開催された国際シンポジウムでは、ILC グローバル・アライアンス―ケープタウン宣言を採択した。

また2011年はライデンで「統合ケアの推進」と題したシンポジウムを開催し、アライアンス各国の医療・介護・福祉の統合的な政策推進の現状と、その課題が熱心に議論された。